特定非営利活動法人山村塾

2019
年次報告書
Annual Report

こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

1 活動コース（稲作コース・山林コース）と里山ミニワーク

山村塾の活動コースでは、週末に棚田や山林に集い、農家と一緒に汗を流したり、交流や体験を楽しみながら、農山村の環境を守る活動を行っています。

2019年度は、アイガモと一緒に環境にやさしい米づくりを行う「稲作コース」、様々な生き物がすめる森作りを目指す「山林コース」、合同で交流や伝統行事を行う「全体行事」を、活動コース行事として17回開催しました。**活動コース会員が2018年度65組から2019年度74組**に、特に稲作コースは2018年度27組から2019年度35組と大幅に増え、それに伴い行事の参加者も増加しました。

棚田の保全活動や農林業体験を泊まりがけで行う「里山ミニワーク」を7回、小学生を対象とした夏休みのキャンプ「山村たんけんキャンプ」を1回実施しました。

【活動コース行事（稲作・山林・全体行事）】
活動場所：四季菜館、稲作コースの棚田、
えがおの森、ケヤキ林、
釈形・上鹿子尾地区内の森林
回数　：17回（18日間）
参加者　：**延べ798名（2018年度747名）**
スタッフ：延べ121名

【里山ミニワーク】
活動場所：四季菜館、えがおの森、炭窯
回数　：8回（14日間）
参加者　：**延べ124名（2018年158名）**
スタッフ：延べ67名

稲作コース 参加者103名での田植え（6月）

トピックス

□行事申し込みルールの整理
新規会員が増え、行事の参加申し込みも増えたことにより、行事の申込方法や定員ルールを整えました。（募集〆切・定員の設定、WEBからの申込導入）

□活動コース リニューアル
持続的な活動となることを目指し、1年をかけて、活動コース会員の年会費や参加費の仕組みを見直しました。

お茶ができるまでを体験する
里山ミニワーク「お茶つみ」

山林コース 下草刈り（7月）

2 研修事業

福岡県森林づくり活動安全講習会

主催：福岡県

福岡県内の森林ボランティアを対象とした県主催の安全講習会を実施し、山村塾は事業の企画・運営を担当しました。今年度は森林ボランティアの基礎知識、手道具での森林整備、動力（草刈機・チェーンソー）の安全な取り扱いに関する講座を**全9回開催**しました。

開催場所：八女市、久留米市、福岡市、北九州市
受講者数：151名
実施日程・回数：6月～1月　全9回（延べ10日間）

自伐林家育成研修

主催：福岡県

福岡県森林環境税の取り組みである「自伐林家育成研修」は2年目を迎え、**10名の受講生**を対象に延べ22日間の研修を行いました。当研修では、週末や仕事の合間などを活用して地域の森林を守る「自伐林家」を育成し、荒廃した森林の再生を担う人材を増やすことを目標としています。山村塾では研修の企画・運営を担当し、安全な林業技術の習得を目指してチェーンソー・刈払機の取り扱いや伐木造材作業等の研修を開催しました。

開催場所：八女市、久留米市、広川町
受講者数：10名
実施日程・回数：8月～2月　全9回（延べ22日間）

3 里山での福祉～「社会福祉法人たからばこ」との森林整備

月に2回、柳川市の障がい者施設「社会福祉法人たからばこ」ののみなさんが、笠原で里山保全活動を行っています。今年度は薪づくり、椎茸の菌打ち、棚田の草取り、ヤギの世話などを行いました。普段の室内作業と比べ、**森林の中で緑に囲まれ**、きれいな空気を吸いながら体を動かして作業でき、転地効果もあるようです。

薪づくり活動では、焚き付けを集める班、太い枝や丸太を運ぶ班、枝を切り揃える班の３班に分かれ、助け合いながら作業します。この薪は、たからばこの施設にある**薪ボイラーの燃料**となり、お風呂等のお湯を沸かすことに使われます。化石燃料にたよらない、里山の循環型エネルギーを活用する取り組みを、たからばこの皆さんと一緒に実践しています。

参加人数：延べ237人
実施回数：21回
活動内容：森林整備、棚田保全

4 合宿ボランティア（国際ワークキャンプ）

2019年度は計3回の合宿ボランティアを開催。ベトナム、ドイツ、台湾、フランス、ベルギーと日本から**計１８名**のボランティアが参加し、棚田の草刈りや米作り等を行いました。ここではその中から、２つの取り組みについて報告します。

1．里山80日ボランティア2019夏（4/27～7/15）
　80日間、4名
2．台日交流ワークキャンプ2019夏（7/18～7/26）
　9日間、10名
3．奥八女芸農ワークキャンプ2019（8/22～10/10）
　50日間、4名
4．個人型ボランティア（8/1～9/25＆8/22～11/11各1名）

里山80日ボランティア2019夏

共催：NPO法人NICE日本国際ワークキャンプセンター

いろいろな国や地域からボランティアが集うことで、多様な視点で地域を見つめ直し、棚田や里山の保全活動がより魅力的なものになっていくことを期待し合宿ボランティア事業に取り組んできました。2019年度の里山80日ボランティアでは、**棚田の保全**をテーマに、地域の方やイベント参加者と交流しながら棚田の草刈り、米づくり、ラッキョウ栽培などのワークを行い、実際に笠原で暮らすことで気づいた山村の良さをブログにて発信してくれました。

ボランティアにとって、薪で風呂を沸かしたり、日本の食材を使って料理をしたり、草刈り機を担いで棚田を歩き回したり、様々な**日本を発見**した日々だったようです。特に、田植えのあとで行った泥合戦は一番の思い出だそうです。

ワークキャンプ参加者：ベトナム１名、ドイツ１名、日本人２名
成果：棚田の草刈り（0.75ha）、イベント参加（12回）、ラッキョウ栽培・加工、米作りなど

※活動ブログ http://egaonomori.exblog.jp/

奥八女芸農プロジェクト

共催：九州大学ソーシャルアートラボ
　　NPO法人NICE日本国際ワークキャンプセンター

撮影：富永亜紀子

ワークキャンプ参加者：
フランス人2名、ベルギー人1名、日本人1名、研究者1名（台湾出身）、アーティスト1名
成果：
棚田の草刈り（1ha）、アート作品（茶山おどり試作）、芸農学校、発表会、作物づくり（米、ラッキョウ）など

※動画サイト
https://youtu.be/rBoEMesdr3Y

九州大学のソーシャルアートラボと連携し、「奥八女芸農プロジェクト」5年目を実施しました。プロジェクトで取り組んだ奥八女芸農ワークキャンプでは、棚田や森林の整備活動といった「農」と2018年に引き続き招聘した演出家の武田力氏による「アート」を半分ずつ実践する**「アート×農」の生活**に取り組みながら地域のリサーチを行い、八女地域に伝わる民謡「八女茶山唄」にあわせた**「八女茶山おどり」**が創作されました。10/15八女茶山おどり発表会、11/17笠原まつりを通じて、地域内外におどりの紹介が行われ、大変好評でした。

※武田力氏webサイト
http://riki-takeda.com/

5 笠原棚田米プロジェクト

消費者と連携 米農家に力

豪雨被災地の再建 「長期契約」で後押し

八女市・笠原地区

朝倉市・黒川地区

米5㌔ 120人にプレゼント

西日本新聞2019/1/23掲載

美しい棚田を次世代に引き継ぐこと目指して取り組む笠原棚田米プロジェクトは**７年目**を迎えました。山村塾では、他地域の災害支援活動として平成29年7月九州北部豪雨によって甚大な被害を受けた朝倉市黒川地区で活動する黒川復興プロジェクトの活動をサポートしています。そのつながりから、笠原棚田米プロジェクトをモデルに、**黒川地区の復興を支援する「黒川故郷米」**プロジェクトが誕生し、2地域の連携が西日本新聞の記事にとりあげられました。黒川地区は、通常のように作付けができる田んぼは１割未満まで減りました（40ha→3ha）。都市と農山村のつながりを深めることで黒川と笠原の農山村風景が続いていく事を期待します。

サポーター数：87名（個人85、企業2、2018年度より増減なし）
参加農家：8軒（2018年度より増減なし）
取扱俵数：120俵（2018年度より、9.75俵増）
守られている棚田面積：20,000㎡　（2019年度より1625ｍ²増）
（120俵→200ａ収穫6俵／10ａとして）
※企業は新日本製薬株式会社、うなぎの大東にご協力いただいています。

担当者ふりかえり

稲作コース担当　椿原　誠

2019年度を振り返ると、会員さんが増えました。人のつながりからまたつながってと、子連れの方が特に増え、イベントもにぎわうようになりました。その点では稲作コースからすればとてもうれしい事ですが、多すぎて、イベントの定員を明確にしないと、いけない事態となりました。さすがに、スタッフ、料理の準備にも限界があるので、そうせざるを得ません。せっかく稲作コースに入会して頂いたのに、稲作コースのイベント申込みを断らなければならない事になりました。とても申し分けのない事です。今後、今までより料理の簡素化や工夫をこらしもっとたくさんの会員さんに来て頂ける様尽力していきたいと思っています。

しかし、新型コロナウイルスにより、2020年に入ると、イベントや、飲食の在り方にたくさんの規制がかかる様な情況となりました。手指消毒、マスク着用であったり、3密の回避。今まで通りの人員では、難しくなったので、定員を20名～30名でいろんな事に注意しながらなんとかかんとか、イベントをしています。今までとは違ったやり方の中で、もっとたくさんの会員さんが来れる様に、イベント運営をしっかり考えていきたいです。

山林コース担当　宮園　福夫

参加者のみなさんのおかげで、「ケヤキ林」（山林コースの活動場所）の下草刈りは一段落し、植林した木もずいぶん大きくなりました。これからはケヤキと混生しているスギ・ヒノキを巻き枯らししたり、アカマツ林の手入れなどを検討しています。また、ケヤキ林の東屋の屋根が雨漏りしているため、修理したいと思っています。

山林コースでみなさんと活動しながら、農林業のことを考えたいですね。例えば、林業は持続可能な産業であり、木材も面白い素材だと思います。しかし、今の市場では木材をそのまま丸太として使うより、CLT材や集成材の材料として使うほうが多く、木の良さが薄まっている気がします。東京オリンピックの選手村もCLT材で建てたそうです。日本の林業は変わってきています。

また、お茶つみに参加された方にはわかると思いますが、山間地のお茶栽培は手間がかかります。経済面から考えると、平野部では大型機械が導入でき生産量も多いぶん有利です。八女茶発祥の地とはいえ、笠原・奥八女のお茶の栽培は難しくなっていくでしょう。

暗い話題が多いですが、今後も皆さんと一緒に活動しながら、山村の営みについて考えていけたら嬉しいです。最後に、皆さんどうぞお元気で。また山で会いましょう。

事務局スタッフ 活動コース担当　原　愛子

2019年は、変えるために考え動いた一年でした。活動コースの仕組みや情報発信方法のリニューアルに取り組みながら、私たち山村塾は誰に何を伝えていきたいのかという根本的なことを整理する機会となりました。また今回は、事務局内はもとより、連携団体の方々、会員のみなさん方にお願いし、頼り、巻き込みながら進めていく場面も多く、そういうことが苦手である自分と向き合いながらの一年でもありました。一緒に歩んでくださった方々のおかげで事業を進めることができました。ありがとうございました！

事務局スタッフ 合宿事業担当　ファン　ポウェイ

2019年の合宿ボランティア事業を振り返ると、参加人数の変動、個性の濃いメンバーとつきあい、災害と向き合うこと、また地域の方とおどることなど、いくつものがためになった気がします。十人十色との言葉どおり、里山に対する考えも様々です。お互い理解し、目標をクリアするのが一番ですが、価値観が合わない時もあります。しっかりコミュニケーションを取る工夫が必要と、改めて感じました。

Panasonic NPO サポート ファンド助成

組織基盤強化に取り組んだ2年間

2018年1月から2019年12月までの2年間、Panasonic NPO サポート ファンドの助成を受けて、組織基盤の強化に取り組んで来ました。その背景として、山村塾が発足して20年以上経過し、今後の体制を考える時期であったことと、2012年九州北部豪雨からの復興プロジェクトに対し、多くの方々から寄付やボランティアの支援をいただいて活動の幅や量が増してきたということがあります。

初年度は、設立メンバーでもある活動コース受入農家の2軒をはじめ、事務局メンバーや理事、会員へのアンケートやヒアリングなど通じて組織診断を行いました。当初は新しいヒーローが現れて活動を盛り上げてもらうにはどうすれば良いか？といった視点がありましたが、議論し整理を進める中で、**今かかわっている人達がより参加しやすく、やりがいをもって参加するには？**といった視点へと変化していったように思います。

2年目は具体的な施策として、活動コースのリニューアル、理事会の活性化、情報発信の見直しに取り組みました。具体的な目に見える成果としては、年会費の仕組みを変更、ホームページリニューアルなどがありますが、本質的な部分では、長年積み重なってきた思いや仕組みを整理し、**重たい課題にも背をむけずに話し合う理事会や事務局の体制**となってきたことが一番の成果だと感じています。

助成期間は終了しましたが、この2年間で得たことを活かして、一つ一つ継続して考えていきたいと思います。引き続き皆さんのご意見やご協力をお願いします。最後に2年間の取り組みにご協力いただいた皆様、助成支援いただいた「パナソニック株式会社】様、コンサルティングの伴走支援に入っていただいた「認定NPO法人アカツキ」様に御礼申し上げます。

※環境分野 2018年募集継続助成 選考結果（助成団体一覧）
https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/2018/kan_index.html
※環境分野 2017年募集事業 選考結果（助成団体一覧）
https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/2017/kan_index.html

ご寄附について

81名の方々から**計2,897,755円**のご寄附を頂戴しました。

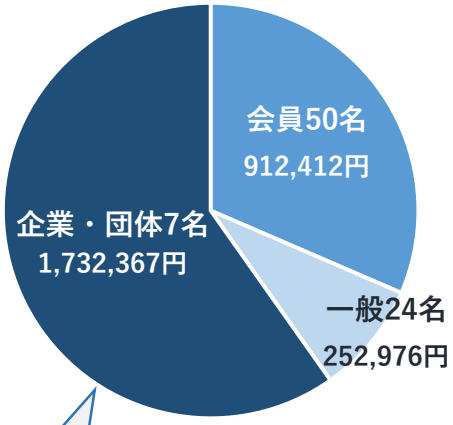
山村塾の取り組みを応援いただき、誠にありがとうございました。

寄附金内訳（事業別）

項目	金額	備考
一般寄付金・ヤマヤマ基金等	2,788,240円	棚田や森林を守る取り組みに活用させていただきました。
平成29年豪雨	69,515円	平成29年九州北部豪雨により被災した朝倉市黒川地区の復興に役立てました。
笠原復興基金	40,000円	平成24年九州北部豪雨からの復興のため、笠原地区の棚田保全事業に役立てました。
計	2,897,755円	

※賛助会費は受取会費に計上し、この金額には含まれていません。

寄附金内訳（寄附者属性）



▶企業・団体からのご寄附について

公益社団法人日本フィランソロピー協会（かんぽ生命寄付プログラム）、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、ＫＤＤＩ株式会社九州総支社、株式会社ファンケル、古本募金きしゃぽん、かってに林業を応援する会、森づくりフォーラム（敬称略）

※詳しくはホームページにて報告しています。 http://sansonjuku.com/news/archives/category/news

会計報告

2019年度 財務諸表

活動計算書（2019年4月1日～2020年3月31日）

科目			金額(円)	
経常収益	受取会費		585,000	
	受取寄附金		2,897,755	
	受取助成金・補助金		3,081,732	
	事業収益	自主事業収益	11,246,289	
		受託事業収益	12,605,574	
	その他収益		94,222	
	経常収益計		30,510,572	
経常費用	事業費	人件費	8,406,186	
		商品仕入高	3,998,728	笠原棚田米仕入れ代金等
		諸謝金	2,333,300	研修事業講師謝金等
		業務委託費	4,173,842	活動コース農産物、食事代等
		食材料費	1,388,668	合宿ボランティア食事材料代等
		消耗品費	1,943,392	笠原棚田米資材、研修事業資材等
		その他経費	6,652,095	保険料、えがおの森賃借料、宅急便代等
	管理費	人件費	1,644,820	
		その他経費	1,023,739	
	経常費用計		31,564,770	
経常外収益			0	
経常外費用			186	
法人税			71,000	
	当期正味財産増減額		-1,125,384	
	前期正味財産増減額		947,422	
	次期繰越正味財産増減額		-177,962	

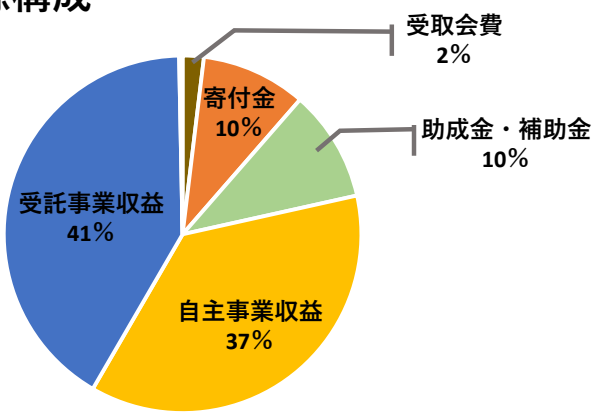
▶自主事業収益 内訳

活動コース年会費収益 19％
棚田米サポーター会費収益 39％
参加費収益 12％
農産物販売収益 7％
自社生産販売収益 6％
その他 16％

賃借対照表（2020年3月31日現在）

資産の部			負債の部		
科目		金額(円)	科目		金額(円)
流動資産	現金	685,799	流動負債	未払金等	8,516,055
	預金	3,748,612		流動負債計	8,516,055
	棚卸資産	2,474,998	固定負債	長期借入金	2,323,500
	未収入金等	1,436,559		固定負債計	2,323,500
	流動資産計	8,345,968		負債の部 計	10,839,555
固定資産	建物	2,125,324	正味財産の部		
	車両運搬具	1	正味財産	前期繰越正味財産	947,422
	機械装置	186,625		当期正味財産増減額	-1,125,384
	保証金	3,675		正味財産の部 計	-177,962
	固定資産計	2,315,625			
資産の部 合計		10,661,593	負債・正味財産の部 合計		10,661,593

財源構成



2019年度方針と総括

2019年度は赤字決算となり、繰越財産がマイナスになりました。参加費設計の見直しなど赤字体質改善の施策はいくつか検討され着手していますが、コロナ禍の影響も少なからず受けており、赤字体質脱却の結果が出るにはもう少し時間がかかると思います。
2019年3月19日に認定NPO法人となりました。寄附者や協力者の方々の期待に応えることができるよう、しっかりと運営していきたいと思います。

ご支援のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。
山村の暮らしに学び、山村の環境を守る取り組みに
ご協力をお願いします。

山村塾は、運営組織や経理が適正で、事業活動に公益性が保たれていることが認められ、
2020年3月19日付で、福岡県より「認定NPO法人」として認定されました。
認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すために国が設けた税制優遇制度です。
山村塾へのご寄附は、確定申告することで寄附金控除の対象となります。

<参考>内閣府NPOホームページ（認定制度について）
https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo-kisochishiki/ninteiseido

▶**ご寄付の方法**：払込取扱票をご利用、または下記口座へお振込みでご寄附をお願いします。

郵便振込口座から	【加入者名】特定非営利活動法人山村塾 【口座番号】01790-3-169398
銀行から	【金融機関】ゆうちょ銀行　【店名】一七九（店番 179） 【口座番号】当座0169398

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスを事務局までお知らせください。

こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

山村塾は1994年に2軒の農林家と会員有志によって、棚田と山林を守る取り組みをスタートしました。都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや豊かな生態系の森づくりを通じて、山村の環境を守る活動と、その活動を支える交流や人づくりを行っています。

特定非営利活動法人山村塾
〒834-1222福岡県八女市黒木町笠原9836-1
TEL・FAX：0943-42-4300　E-mail：info@sansonjuku.com
https://sansonjuku.com
@sansonjuku